

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/11//24
所属学部・ 研究科・学府	教育学部
所属学科・専攻	中学校教員養成課程英語科教育分野

## 1. 留学先について

留学先大学名	University of Alberta							
留学先所属学部等	Faculty of Arts							
留学期間	出発日	2019/8/25	入学日	2019/8/25	修了日	2020/4/22	帰国日	2020/4/2
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	<input type="checkbox"/> その他( )					
	通学時間						<input type="radio"/> On campus	
	通学方法	徒歩						
	居室スペース	<input type="checkbox"/> 個室	<input type="radio"/> ( 4 ) 人部屋	<input type="checkbox"/> その他( )				
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="radio"/> キッチン	<input type="radio"/> トイレ	<input type="radio"/> バス	<input type="radio"/> リビング	<input type="checkbox"/> その他( )	
食事	自炊	70 %	学食	%	外食	20 %	その他	10 % ( 菓子 )
保険	海外旅行保険(名称)	東京海上日動						
	派遣先大学指定の保険(名称)	OSSMA					<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
東京 ⇄ カルガリー(飛行機) ⇄ エドモントン								
エドモントンの空港から町の中心部までは、シャトルバスかETSのバスに乘車。								

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	1,706,614 円								
出どころ									
自費	<input type="checkbox"/>	貯金	円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input type="radio"/>	両親	1,066,614 円	<input type="checkbox"/>	家族・親戚	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input type="radio"/>	JASSO	640,000 円	<input type="checkbox"/>	その他名称( )		<input type="checkbox"/>		円
その他	<input type="checkbox"/>	その他( )							円

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	円	その他( )	円
留学中	海外送金	キャッシング	○	その他( クレジットカード、デビットカードのみ )

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	クレジットカード
住居にかかった費用	クレジットカード
その他	デビットカード

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			243,631	円
海外旅行保険			163,560	円
OSSMA			19,800	円
査証・在留許可証			36,389	円
住居			469,379	円
食費			213,790	円
通学に要する交通費			(その他大学に支払った経費に含まれる)	円
教科書、教材費			20,190	円
その他大学に支払った経費			65,459	円
光熱費			(寮費に含まれる)	円
その他 (大学の旅行)			28,986	円
その他 (携帯代)	CAD	890	74,727	円
その他 (交際費、娯楽費)			345,200	円
その他 (その他)			25,503	円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	○	無
1 Second Language Acquisition	正規	3	有	○	無
2 Sociolinguistics	正規	3	有	○	無
3 Child Language Acquisition	正規	3	有	○	無
4 Introduction to Linguistic Anthropology	正規	3	有	○	無
5 English Grammar for Teachers of Adult ESL	正規	3	有	○	無
6			有		無
7			有		無
8			有		無
9			有		無
10			有		無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

登録はオンラインで行うが、科目によってはprerequisiteを設けているため、対応する科目を日本で履修している場合はAdministratorに申請の手続きを取る必要がある。履修していない場合でも担当教授に直接連絡をするか、コーディネーターに相談をすると許可してもらえる場合もある。中には空席を待たないと登録できないような非常に人気のコースもあった。

## 3-2. 授業内容、方法に関して

私の履修した科目は全て対面の講義型だった。クラスによって人数は異なるが20~50人の学生が一人の教授から講義を受ける。中には事前に授業のスライドをオンラインで配布しているコースもあるので、多くの学生は自分のラップトップにダウンロードしておいてそこに打ち込んだり、タブレットを使ってメモを残すなどしていた。基本的にどの教科でも一回の授業につきリーディングが課されているため、学生はそれを事前に読んでおくことが求められている。

## 3-3. 語学力について

授業では留学生であることは関係なく意見を求められるので、語学力の面ではスピーキングやライティングなどのアウトプットするのに必要な技能が高いほうが良い。ただし、インプットが正確にできることが前提であるので、どの技能も少なくとも自信を持って運用できる力が必要だと感じた。

## 3-4. 図書館など学内施設について

学内施設及び図書館は非常に充実しており、図書館の数、施設内に設けられたデスクとチェアなどが多いため、勉強をする場所に困ることは基本的になかった。図書館や施設内にお店もあった。講義室にはほとんどの場合イスとサイドについているだけの小さなテーブルがあるだけで、少人数用の教室には机とテーブルがあるようだった。

### 3-5. その他

テスト前に授業がなくなるので、十分に勉強する時間があるように感じた。

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

大学内のHUBという寮兼飲食店兼通路のような施設で、5ヶ月間ルームメイト一人と一緒に4人部屋に住み、次の2ヶ月間は2人増えて四人で個室以外のキッチン、バスルームを共有して生活した。キャンパス内の施設なのでバス停も近く、乗ればすぐにスーパーや薬局に行けたので生活で不便だったことはあまりない。ご飯を作るのが面倒なときは階段を降れば飲食店が立ち並んでいるため、多くの学生が利用していた。また、授業の講義室への移動も楽だった。冬になると外は寒く、雪で覆われていて歩くのが億劫だが、いくつかの施設にはHUB内を歩くと直接行けるので便利だった。

### 4-2. 食生活について

大学内にコーヒーショップがあることや周りにカフェが充実していること、HUBやSUBという学生が多く集まるような場所には飲食店が多いことから、そういったものを利用し過ぎてしまうとお金もかかり栄養が偏るなどの問題があるように思う。しかし、スーパーが近いこと、アジア系スーパーがあることから、自炊する上で困ることはあまりなかった。入居してすぐに電子レンジを買ったこともあり、電子レンジ用の炊飯道具を持っていったら日本のお米も炊くことができたので日本食は自分で作っていた。

### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

大学内の施設なら至る所にwifiが飛んでいた。ただし、外出する際にはバスに正確に乗るのが最初は混乱するので、携帯があると安心する。携帯はオリエンテーションウィークに学内でブースがあり、比較しながらSIMカードを購入することができた。ただし、通信制限になるようなプランはない(?)のか、使用料をオーバーすると追加料金がかかり、それが高額になりやすいのでこまめにチェックしなければならなかった。

### 4-4. 服装について

エドモントンでは冬になると氷点下の日々が続く。多くの人はダウンとコートを常に着用してニット帽、手袋、マフラーを身につけていた。最初の二ヶ月は日本の秋冬の感覚で過ごせるが、11月ごろから4月にかけてしっかりとした防寒具が必要になる。

### 4-5. 健康管理について

人間関係がうまくいかないと外出の機会が減ってしまうため、メンタルヘルスに影響するよう思った。私は12月ごろ肺炎にかかってしまったので、予防はもちろん風邪をひいたらすぐに医者へ行ったりよく休むなど、無理をしないように。予約をすればインフルエンザの予防接種を受けられるようだった。

### 4-6. 保険、OSSMAの利用について

特になし

## 4-7. 課外活動について

特になし

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

電車やバスですぐのダウンタウンにMacEwan University のキャンパスがあり、そこでは学生が日英会話のクラブを運営していたため、アルバータ大学だけでなくこちらのクラブにも参加をした。ルームメイトの所属するコミュニティが運営するパーティーに招待してもらい、参加したりもした。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

電子レンジでお米が炊けるプラスチックの容器を持っていったことで高価な炊飯器を買う必要がなく、そこまで手間がかからなかったのが役立った。寮内で履くためのサンダル。

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

お米はカナダのアジアスーパーで手に入るのを持っていく必要はなかった。お土産にと思って持参した日本の扇子やスリッパなどは、親密にならないとプレゼントしにくく、簡単に手渡せる日本のお菓子の方が喜ばれるようだった。

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

英語が不安だからと言って何も話さずにいるのは相手を困らせてしまうので良くないと思った。くしゃみをしたらbless youと声をかける場合が多かった。レストランやカフェなどではチップを支払うのが常識。スーパーなどのレジでは必ずhow are youと聞かれる。

## 旅行

カナダのフランス語圏、ケベックへ旅行をした。リーディングウィークという一週間のブレイクを利用して一人旅をしたが、フランス語が話せないとコミュニケーションがとれないような状況もあり、困ることも多かった。年末はトロントで1日遊んだあと、夜行バスを利用してニューヨークへ旅行した。カナダとはレストランや電車の雰囲気異なり、いい経験になった。

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

映画鑑賞やショッピングをして過ごした。後半は、仲良くなった友人の家でパーティーをしたりもした。留学生として学業に専念していると息が詰まることもあったので、程よく映画鑑賞や同じ留学生と遊ぶなどして息抜きをしていた。

## 5. その他

### 5-1. 留学先大学について

アルバータ大学は非常に大きなキャンパスで施設が充実しており、学びたいことが学べ、次につながる場所だと思う。交換留学生の数は少ないが、別のプログラムで同じ期間滞在するインターナショナル生も多く、日本人が多めの印象を受けた。

### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

語学力については、インプットアウトプットともに、できるだけ身につけてから留学に臨むことが望ましいと思う。基礎があると伸びも早いように感じた。

どのコースを履修し、そこで学んで今後どうしたいのかを明確にして、目的のある留學生活を送れるようにしてほしい。

語学力や人間関係など、各方面で目標を設定しておくのが良いと思う。

### 5-3. 留学を終えて

中学生の頃から憧れの長期留学であったが、自分がどのような態度で臨むかによって結果が異なると思った。自分でどうにかしなければいけない部分が多く、友達を作ることも、英語を伸ばすことも、努力なしではなし得ないことなので、ただ行くだけでは不十分で、そこでどれだけ努力できるかだと思った。自分はその点であまり踏み切れなかったかなと思う。

ただ、学んだことは多く、得たものもかけがえのないものばかりだった。アルバータ大学で千葉大学で専攻する学部の学びを超え、言語学を勉強し、初めて自分が強く関心のある分野を学び、また、熱心な先生方を見て、私も研究の道に進むことを決めた。帰国してからも連絡を取る友人との出会いにより、語学力も向上していった。

この留学がなければ、この4年間はまったく違った大学生活になっていたと思う。